

## 研修機関が公表すべき情報の内訳

研修機関情報	法人情報	名称	公益社団法人留萌地域人材開発センター運営協会
		住所	北海道留萌市南町1丁目17番地
		代表者名	会長 対馬 健一
		研修事業担当理事	専務理事 鈴木 鉄男
		役員	別紙「役員名簿」のとおり
		事業概要	別紙「事業計画」のとおり
		法人財務情報	別紙「収支予算」「財産目録」「収支計算書」のとおり
	研修機関情報	事業所名称	公益社団法人留萌地域人材開発センター運営協会
		理念	地域における中小企業労働者・地域住民の能力開発を通じ、人々の職業生活がより豊かになること、地域経済社会がより健全な発展をすることを目指す。
		学則	添付2号様式「学則」参照
研修施設・設備		留萌地域人材開発センター 学科用研修室・実技用研修室ほか	
研修事業情報	研修の概要		介護職員初任者研修
		形式	通学
		受講対象	① 一般 ② 北海道立旭川高等技術専門学院の指定する者
		研修スケジュール	令和1年11月7日～令和2年2月6日
		定員	① 15名 ② 15名
		指導員者数	25名
		研修受講までの流れ (募集、申込)	① 募集時期：開講日の60日前から募集し、10日前又は定員に達し次第締め切る。 ② 募集時期：北海道立旭川高等技術専門学院が募集する。 (令和1年9月3日～10月4日)
		費用	① 一般 65,000円 センター会員 60,000円 ② 無料
		留意事項・特徴、受講者へのメッセージ等	介護職に現在従事、または介護職を目指す方への研修です。
	課程責任者	課程編成責任者	桜井 匠
	研修カリキュラム①②	科目別シラバス	学則 別紙1-2カリキュラム 参照
		科目別時間数	
		科目別担当教官	添付3号様式「講師一覧」参照
科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間		学則 別紙1-2カリキュラム参照	

	修了評価	添付2号様式「学則」7修了認定(2)成績の評定方法のとおり		
	実習施設	添付5号様式「実習施設一覧」のとおり		
	講師情報	添付3号様式「講師一覧」参照		
実績情報	過去の研修実施回数/ 延べ人数 (24年度までは訪問介護員養成 研修分)	平成24年度	4回	74人
		平成25年度	2回	18人
		平成26年度	1回	10人
		平成27年度	2回	31人
		平成28年度	1回	13人
		平成30年度	1回	10人
連絡先等	申込先・資料請求先	公益社団法人留萌地域人材開発センター運営協会 〒077-0014 留萌市南町1丁目17番地 TEL 0164-42-0348 FAX 0164-42-3973		
	法人・事業所の苦情対 応者名	公益社団法人留萌地域人材開発センター運営協会 専務理事 鈴木 鉄男		

## 学 則

- 1 研修の目的  
介護業務に従事する介護員の養成を図り、介護職に従事する者及びそれを希望する者への知識と技術の付与、高齢化社会への対応及び求職者の就職促進の一助を目的とする。
- 2 研修の名称  
研修の形式により、次のとおりとする。  
・介護職員初任者研修

### 3 研修の要旨

NO	事業所の所在地	研修形態	修業年限	研修期間	定員(人)	受講料(円)	受講対象者
①	留萌市	昼間	8ヶ月	3ヶ月	15名	65,000円 (センター会員60,000円)	一般
②	留萌市	昼間	8ヶ月	3ヶ月	15名	0円	北海道立旭川高等技術専門学院の指定する者

### 4 受講手続

#### (1) 募集時期

- ① 開講日の60日前から募集し、10日前又は定員に達し次第締め切る。
- ② 北海道立旭川高等技術専門学院が募集する。

#### (2) 受講料納入方法

- ① 原則申込締切日までに納入する。  
ただし、やむを得ない事情により締切日までに納入することができない場合には、研修期間内において後納を認める。
- ② 北海道立旭川高等技術専門学院委託訓練費で負担する。

#### (3) 受講料返還方法

- ① 申込締切後の受講料は返還しないこととする。  
ただし、講座開催が中止となった場合は全額返還する。

### 5 カリキュラム

学則別紙1のとおりとする。

### 6 主要テキスト

介護職員初任者研修テキスト (株)QOLサービス 発行

### 7 修了認定

#### (1) 出欠の確認方法

各講習日登校時に、受講者本人の署名により出欠確認を行う。

#### (2) 成績の評定方法

「こころとからだのしくみと生活支援技術」では、介護技術の習得状況を各講師が介護技術の習得状況を各講師がA B C Dの4区分によって評価をする。(A:的確に習得している、B:概ね習得している、C:やや習得している、D:理解不足である。) D評価の場合は、補講を実施し再評価する。

### (3) 修了の認定方法

研修教科のすべてに出席しなければならない。但し、欠席した教科について講義はレポート提出、実技においては当該講師の補講を受け出席とみなす。

「こころとからだのしくみと生活支援技術」については、各項目の評価がA B Cのいずれかの評価を得ている者が修了時の筆記試験を受けることができる。

修了時の筆記試験は、100点満点中60点以上の者を合格とする。60点に満たない者については、再度筆記試験を実施する。

### (4) 修了証明書

修了が認定されたものには、学則別紙2の修了証明書を交付する。

## 8 補講の取扱い

やむを得ない理由により欠席した時間等については次のとおりとする。

学科については当該教科の担当講師指示によるレポート提出にて出席を満たすとする。

実技については当該講師の補講を実施し出席と認める。ただし、一科目2,000円を自己負担とする。

## 9 退学規定

(1) 受講者が退学しようとする時は、所定の退学届を提出すること。

(2) 受講者が次の要件に該当するときは、退学を命ずることがある。この場合の通知は書面によるものとする。

・当協会の定める諸規定を守らず、又は次の行為に該当する場合。

ア 性行不良で改善の見込みがないと認められるとき。

イ 学力劣等で修了の見込みがないと認められるとき。

ウ 正当な理由がなくして出席が常でない者。

エ 研修の秩序を乱している者。

オ 通学における出席状況が全体の80%未満であるもので、修了の見込みがないと認められる者。

## 10 講師

添付3号様式「講師一覧」のとおりとし、一講師6項目を限度として講義を行う。

## 11 実習施設

添付5号様式「実習施設一覧」のとおりとする。

## 12 その他

この学則は、平成25年12月19日から施行する。

この学則は、平成27年5月18日から施行する。

この学則は、平成28年5月1日から施行する。

この学則は、平成30年7月1日から施行する。

この学則は、令和1年8月30日から施行する。

## 介護職員初任者研修カリキュラム（通学）

### 科目別シラバス

#### 1. 職務の理解（6時間）

ね ら い	研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様なサービスの理解</li> <li>2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解</li> </ol>

#### 2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

ね ら い	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権と尊厳を支える介護             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人権と尊厳の保持</li> <li>(2) I C F</li> <li>(3) Q O L</li> <li>(4) ノーマライゼーション</li> <li>(5) 虐待防止・身体拘束禁止</li> <li>(6) 個人の権利を守る制度の概要</li> </ol> </li> <li>2. 自立に向けた介護             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自立支援</li> <li>(2) 介護予防</li> </ol> </li> </ol>

#### 3. 介護の基本（6時間）

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</li> <li>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</li> </ul>
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護環境の特徴の理解</li> <li>(2) 介護の専門性</li> <li>(3) 介護に関わる職種</li> </ol> </li> <li>2. 介護職の職業倫理             <ul style="list-style-type: none"> <li>職業倫理</li> </ul> </li> <li>3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護における安全の確保</li> <li>(2) 事故予防、安全対策</li> <li>(3) 感染対策</li> </ul> <p>4. 介護職の安全 介護職の心身の健康管理</p>
--	---

#### 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

ね ら い	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
内 容	<p>1. 介護保険制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</li> <li>(2) 仕組みの基礎的理解</li> <li>(3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</li> </ul> <p>2. 医療との連携とリハビリテーション</p> <p>3. 障害者総合支援制度およびその他制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 障害者福祉制度の理念</li> <li>(2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解</li> <li>(3) 個人の権利を守る制度の概要</li> </ul>

#### 5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

ね ら い	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。
内 容	<p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</li> <li>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</li> <li>(3) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</li> </ul> <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 記録における情報の共有化</li> <li>(2) 報告</li> <li>(3) コミュニケーションを促す環境</li> </ul>

#### 6. 老化の理解（6時間）

ね ら い	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
-------------	--

内 容	<p>1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常</p> <p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>2. 高齢者と健康</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p>
--------	---

## 7. 認知症の理解（6時間）

ね ら い	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。
内 容	<p>1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念</p> <p>2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <p>3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>(2) 認知症の利用者への対応</p> <p>4. 家族への支援</p>

## 8. 障害の理解（3時間）

ね ら い	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
内 容	<p>1. 障害の基礎的理解</p> <p>(1) 障害の概念とICF</p> <p>(2) 障害者福祉の基本理念</p> <p>2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</p> <p>(1) 身体障害</p> <p>(2) 知的障害</p> <p>(3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）</p> <p>(4) その他の心身の機能障害</p> <p>3. 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援</p>

## 9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</li> </ul>
-------------	--

内 容	<p>&lt; I. 基本知識の学習・・・10時間 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の基本的な考え方</li> <li>2. 介護に関するところのしくみの基礎的理解</li> <li>3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</li> </ol> <p>&lt; II. 生活支援技術の学習・・・53時間 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 生活と家事</li> <li>5. 快適な居住環境整備と介護        快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</li> <li>6. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護        整容に関する基礎知識、整容の支援技術</li> <li>7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護        移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</li> <li>8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護        食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</li> <li>9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護        入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護        排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>11. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護        睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>12. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護        終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への課程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</li> </ol> <p>&lt; III. 生活支援技術演習・・・12時間 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 介護課程の基礎的理解</li> <li>14. 総合生活支援技術演習</li> </ol>
--------	--



10. 振り返り（4時間）

ね ら い	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
内 容	1. 振り返り 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修

## 講 師 一 覧 ( 1 )

講師 調書 番号	氏 名	担当科目 (項目)	資 格 名	専兼別	備考
1	田中 卓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の職業倫理</li> <li>・介護における安全の確保とリスクマネジメント</li> <li>・介護職の安全</li> <li>・介護職の役割、専門性と多職種との連携</li> <li>・介護保険制度</li> <li>・総合生活支援技術演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> <li>・社会福祉士</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	
2	福岡 雅文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合生活支援技術演習</li> <li>・人権と尊厳を支える介護</li> <li>・自立に向けた介護</li> <li>・障害福祉制度及びその他制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> <li>・介護支援専門員</li> <li>・社会福祉主事</li> </ul>	兼	
3	松下 悦子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と健康</li> <li>・介護におけるコミュニケーション</li> <li>・家族への支援</li> <li>・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</li> <li>・介護におけるチームのコミュニケーション</li> <li>・老化に伴うところとからだの変化と日常</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	
4	石川 哲哉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療との連携とリハビリテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士</li> </ul>	兼	
5	長尾 佳子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</li> <li>・介護に関するからだのしくみの基礎的理解</li> <li>・介護に関するところのしくみの基礎的理解</li> <li>・快適的な居住環境整備と介護</li> <li>・整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・移動移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師</li> </ul>	兼	
6	貝森 涼子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症を取り巻く状況</li> <li>・認知症に伴うところとからだの変化と日常生活</li> <li>・医学的側面からみた認知症の基礎と健康</li> <li>・家族への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師</li> </ul>	兼	

事業所の所在地 留萌市

(控) は、今講分について控え講師であることを示す。

## 講師 一 覧 (2)

事業所の所在地 留萌市

講師 調書 番号	氏 名	担当科目 (項目)	資 格 名	専兼別	備考
7	曾我部 栄希	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立に向けた介護</li> <li>・介護保険制度</li> <li>・障害者総合支援制度及びその他制度</li> <li>・家族の心理、かかわり支援の理解</li> <li>・人権と尊厳を支える介護</li> <li>・介護職の役割、専門性と多職種との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士</li> </ul>	兼	
8	上川原 豊美	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるチームのコミュニケーション</li> <li>・就業への備えと研修終了後における継続的な研修</li> <li>・介護職の安全 (控)</li> <li>・家族心理、かかわり支援の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	
9	吉田 由起子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権と尊厳を支える介護</li> <li>・自立に向けた介護</li> <li>・介護職の職業倫理 (控)</li> <li>・介護における安全の確保とリスクマネジメント(控)</li> <li>・総合生活支援技術演習</li> <li>・振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師</li> <li>・保健師</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	
10	佐藤 佳緒里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> </ul>	兼	
11	柴田 春夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> </ul>	兼	
12	金森 千尋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者支援制度およびその他制度</li> <li>・介護保険制度</li> <li>・生活と家事</li> <li>・介護過程の基礎的知識</li> <li>・介護職の安全</li> <li>・振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	

## 講師一覧(3)

事業所の所在地 留萌市

講師 調書 番号	氏 名	担当科目 (項目)	資 格 名	専兼別	備考
13	山田 静江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の基礎的理解(控)</li> <li>・障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解 (控)</li> <li>・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理(控)</li> <li>・家族への支援(控)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師</li> </ul>	兼	
14	広島 和子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境整備と介護</li> <li>・介護に関するからだのしくみの基礎的理解</li> <li>・死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</li> <li>・介護に関するところのしくみの基礎的理解</li> <li>・介護過程の基礎的理解</li> <li>・介護の基本的な考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	
15	佐々木 哲平	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度</li> <li>・障害者総合支援制度及びその他制度</li> <li>・認知症を取り巻く状況</li> <li>・認知症に伴うところとからだの変化と日常生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームヘルパー 2 級</li> <li>・ホームヘルパー 1 級</li> <li>・介護福祉士</li> </ul>	兼	
16	工藤 諭史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なサービスの理解</li> <li>・介護職の仕事内容や働く現場の理解</li> <li>・人権と尊厳を支える介護</li> <li>・自立に向けた介護</li> <li>・介護におけるコミュニケーション</li> <li>・介護におけるチームのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援専門員</li> <li>・ホームヘルパー1 級</li> <li>・介護支援専門員</li> <li>・主任介護支援専門員</li> </ul>	兼	
17	宇野 輝和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者支援制度及びその他制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士</li> <li>・介護支援専門員</li> </ul>	兼	
18	若林 倫江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合生活支援技術演習</li> <li>・振り返り</li> <li>・就業への備えと研修終了後のおける継続的な研修</li> <li>・生活と家事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士</li> </ul>	兼	

## 講 師 一 覧 ( 4 )

事業所の所在地 留萌市

講師 調書 番号	氏 名	担当科目 (項目)	資 格 名	専兼別	備考
19	木村 暁人	・医療との連携とリハビリテーション	理学療法士	兼	
20	大橋 友加里	・障害の基礎的理解 ・障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解 ・家族心理、かかわり支援の理解 ・介護の基本的な考え方 ・介護に関するこころのしくみと基礎的理解 ・介護に関するからだのしくみと基礎的理解	看護師	兼	
21	佐藤 公	・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼	
22	成澤 ちづ子	・整容に関連しここととからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・入浴、清潔に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼	
23	西村 由香子	・介護過程の基礎的理解 ・総合生活支援技術演習 ・就業への備えと研修終了時における継続的な研修 ・振り返り	介護福祉士	兼	
24	高嶋 成泰	・医療の連携とリハビリテーション ・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・快適な共住環境整備と介護	理学療法士 介護福祉専門員	兼	

## 講 師 一 覧 (5)

事業所の所在地 留萌市

講師 調書 番号	氏 名	担当科目 (項目)	資 格 名	専兼別	備考
25	遠藤 達也	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> </ul>	介護福祉士	兼	
26	本間 耕治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた</li> <li>・総合生活支援技術演習</li> <li>・振り返り</li> <li>・就業への備えと研修修了時における積極的な研修</li> </ul>	介護福祉士	兼	
27	真田 良美	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> </ul>	介護福祉士	兼	
28	杉山 一絵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</li> <li>・家族への支援</li> <li>・障害の基礎的理解</li> <li>・障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解</li> <li>・家族心理・かかわり支援の理解</li> <li>・介護の基本的な考え方</li> </ul>	看護師	兼	
29	日野 陽子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症を取り巻く状況</li> <li>・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</li> <li>・認知症に伴うところとからだの変化と日常生活</li> <li>・家族への支援</li> </ul>	看護師 介護支援専門員	兼	
30	八谷 崇博	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> </ul>	介護福祉士	兼	

